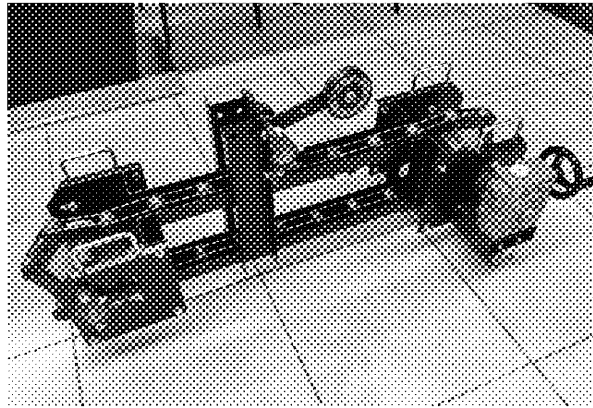


# 自社製コンベヤー展開

## 日本省力機械が来春投入



チェーンの長寿命化につながる  
ハンマリング装置

日本省力機械（大阪府茨木市、辰村周平社長）は、2024年春をめどに自社製品のコンベヤー「スマートコンベヤー」を投入し、26年3月期にコンベヤー事業での自社製品比率30%を目指す。スマートコンベヤーはチェーンの張力を可視化して保守効率化などにつなげるほか、ハンマリング装置で灰などの詰まりを防いで長寿命化する。プラントメーカーや自治体に売り込む。26年3月期の全社売上高は23年3月期比55・5%増の7億円を目指す。

スマートコンベヤーはマイコンで張力やモーター電流の大きさを測定するとともにディスプレイで表示する。従来制御盤でモーター電流のみを測定してコンベヤーの稼働状況把握に生かしていた。制御盤などの設計改良で小型化し、コストや設置スペースを低減できるとしている。大阪府内のゴミ焼却場で試験してデータ収集している。1年間で張力が10%ほど上がったが、今後は張力上

昇の原因やデータを分析し、故障の予防や予知に生かす手法を確立する。

ハンマリング装置はハンマーでチェーンをたたき、灰やゴミなどが詰まって固着するのを防ぐ。現在は手動でたたき、一定間隔でたたきように自動化。保守作業負担を軽減するとともに、灰が絡んでチェーンを回転しにくくなるのを防ぐ。円滑に動き続けることでチェーンの寿命を2倍に延ばせるという。

12月からは岡山県のゴミ焼却場のコンベヤーに取り付けてテストする。1カ月後の状況を確認して効果を検証する。ハンマリング装置のみを既存のコンベヤーに設置する方式で

販売することも視野に入れる。

従来は自動車や製鉄、ゴミ焼却場など向けのプラントメーカーからの受注品を中心に事業展開してきた。環境意識向上や国連の持続可能な開発目標（SDGs）対応で高付加価値化したコンベヤーの需要が見込めると判断し、自社製品で展開することにした。